

ボールであそび 脳をそだて、からだをつくろう

わたしたちは、「ベースボール型」というスポーツ(野球やソフトボール、ティーボールなど)を通じて、乳幼児期(0歳から6歳まで)にボールあそびを体験することにより、からだを動かすことの楽しさ(ストレス発散)や社交性や協調性(人を思いやる気持ちや競争心の向上)を成長させる上でもっとも重要であると確信しています。特に、ボールあそびでは、ボールを投げるという投球動作は、人間に必要な基礎運動の一つで、片足立ちや上半身のひねりができないと上手に投げられません。投げる運動ができるようになると、たとえば跳び箱も跳べるようになります。それは、どれくらいのスピードで走ってどのタイミングで手を使えばいいのかといった「空間認知能力」の成長にもつながってくるからです。自動車や自転車が向かってくるスピードを認知するのも、ボールを投げる運動をやった子とやらない子では差が出ます。

そこで、公益財団法人日本ソフトボール協会は、もっとも感受性のある乳幼児期(0歳から6歳まで)にボールあそび(ASOBALLプログラム)を体験してもらうことが、これからの子どもたちの成長に役立つものと考えるときにも第2・3ステージとなる小学校・中学校での「ベースボール型」授業にもスムーズに参加できると考えています。日本の未来を担う子どもたちがボールあそびで楽しさや協調性を養い、そして考える力を身に付けられることは健康で豊かな生活を送ることにつながります。

最後になりますが、全国の保育園・幼稚園等において日々保育および教育に従事されている先生がた、そして保護者の皆さま、どうかこのASOBALLプロジェクト活動にご興味をもっていただき、将来のある子どもたちに是非とも体験する機会を作ってくださいますようお願い申し上げます。



いろいろなスポーツの指導者、
お父さん・お母さん、先生たちみんなで
子どもを成長させていこう

スポーツを通して楽しむ!
子どもたちも成長する!それが
ASOBALLプロジェクトです!

